

# 災害救援ひのきしん隊

## 10月31日教区訓練実施



第629号

発行所

天理教静岡教務支庁  
〒425-0013  
焼津市岡当目1番地

TEL (054) 626-1333  
FAX (054) 628-4615  
Email:skyou@live.jp



静岡教区災害救援ひのきしん隊（山口志朗隊長）は十月三十一日、小笠山総合運動公園エコパスタジアムにおいて教区訓練を実施した。早朝から各支部隊のワゴン車が続々と到着し、あいにくの雨模様の中でも、隊員たちは

教区報は、下のQRコードより、スマートフォン等で、ご覧頂けます。



意気揚々と結集、午前八時に親神様、教祖、祖霊様を遙拝し結隊式が執り行なわれ各ブロックごとに分かれて訓練を開始した。東部ブロックは約三百平米の雑木の伐採を行った。中部ブロックは水路護岸用の蛇籠を五個作成及び設置した。西部ブロックは砂防ダムを三カ所作り、蛇籠五個の作成及び設置を行った。

午後からは日も差しはじめ作業も順調に進み予定より一時間早く、午後二時には解隊式が行われた。公園管理事務所より天理教災害救援隊のひのきしんに対し「天理教さんは他のボランティアの方々にはお願いできない難しい作業でも快くお引き受け頂き大変たすかっております。今後ともよろしくお願い致します。」と御礼の言葉を頂いた。参加隊員は七十七名だった。



# 青年会にいがけデー

青年会では、教務支庁に於いて、十月二十八日より一泊二日の日程で「教区青年会にいがけデー」を開催した。本年の「全教一斉にいがけデー」は各教会、または各家庭で例年より小規模での開催となったが、青年会では有志を募り布教活動を行った。

支部長会の日に合わせ、例会を行っていたが、一昨年四月より



「ひのきし

例会」と銘打ち、例会の会合に合わせ一泊二日

支庁でのひのきしんを毎月行っている。この例会をにいがけ例会とし、二十八日二十九日の両日布教活動を行った。二十八日午前十時に集合、大池副委員長による開講挨拶の後、教務支庁から焼津駅ま



場ひのきしんや、除草などに汗を流した。

青年会では、昨今の事情の中でも毎月ひのきしん例会を行う中に、参加者も徐々に増え、また初めて教区青年会に参加する会員も増え、ここ数年、県内のあらかと増えようが一人また一人と増えてきている。教区活動に参加し、同世代の会員と交流を深める中で、自教会や上級教会へ足を運ぶようになった会員や、自身のおたすけを相談する仲間がいたり、非常に有意義な時間をすごしている。今後とも青年会へのお力添えをよろしくおねがいします。

で神名流しで移動し、駅ロータリーで三名の会員が路傍講演を行った。自身の信仰体験や、教理を語る姿に、あらかとよりよ

うの熱意を感じた。午後は、教務支庁周辺での神名流しとなった。翌二十九日は支部長会の駐車

(委員長 鈴木悟)

# 静岡教区学生会 「道の学生ひのきしんデー」 オンライン

## 自分のできるひのきしんってなんだろう

教区学生会は九月十八日「静岡教区学生会道の学生ひのきしんデー」をオンラインで開催した。

天理教学生会では昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大に伴い「道の学生ひのきしんデー」は各自での実施を提唱。

これを受け、教区も開催方法を模索し、九月より静岡県も緊急事態宣言対象地域となっていたこともあり「春の学生おちばがえり」に続き、オンラインでの試みとなった。

当日、学生らはウェブ会議ソフト『Zoom』を用いて行事に参加した。

はじめに「ひのきし

んってなんだろう」をテーマにグループワーク。各々が思うひのきしんの形や意味などを考え意見を出し合った。その後、実践へ。ひのきしんは十五分間、自室や自宅周辺を掃除してもらおう形をとった。

学生らは、普段掃除をしない場所に悪戦苦闘しながらも、一生懸命ひのきしんに励んだ。最後に「ひのきしんとは？」と題して、岡野多吉教区学担委員長が講話。

「オリンピック金メダリストの大野将平選手やメジャーリーガーの大谷翔平選手の活躍の裏には『ゴミを良く拾う』という共通点があり、単に清掃と捉えず、その行いは未来への大きな可能性となる」と話した。

参加した学生は「ただ掃除をして綺麗にするということではなく、周りの人のことを思い、ひのきしんをさせてもらおうという心持でさせてもらうことで清々しい気持ちになった。そういう気付きを得られた良い機会だった」と感想を述べた。

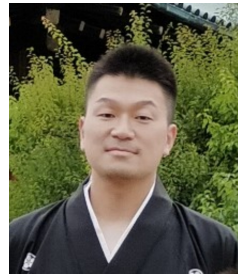
岡野委員長は「学生たちは、改めて『ひのきしん』について考えたり、学ぶことができた行事になった。オンラインでの開催ということでも少し不安もあったが、いろいろなものを得たり、感じている学生の様子を見て、どんな形でも開催できて良かった」と述べた。



# 新任・教会長に就任して

中駿東支部  
愛静大教会部属  
愛八分教会五代会長

大畑 大志  
(三十九才)



六月二十六日に御存命の教祖より愛八分教会五代会長の理のお許しを頂戴致しました。当教会は、大正十三年十月十六日に教会設立されましたが、しばらくは事情教会でありました。

大畑家の入信は、大正八年、愛駿初代“大谷志ゆん”のおたすけを頂き、お導き頂いた“大畑たね”が、昭和十年、当時事情教会であった東愛部内の愛八分教会、二代会長として御命を戴くことから始まりました。教会設

立の折には、愛駿初代様が静岡の今の地をお探し下さったと聞いております。それから八十六年、歴代の会長、用木、信者様方のおかげにより、今日の結構な姿があり、五代会長として通らせて頂けることは、大変ありがたく思います。

九月四日には、無事に会長就任奉告祭をとめさせて頂きました。が、コロナ感染者の増加、緊急事態宣言の発出という状況を鑑みて、当日は家族のみでつとめさせて頂きました。信者はじめ大勢の方にお越し頂けなかったことは、誠に痛恨の極みでございます。また教勢においても決して楽なスタートではないと思っております。しかし、成ってくるのが天の理、全てが親神様の大きいなる親心と悟

らせて頂き、この節を忘れることなく、心に刻み、より良い教会を目指し、又、色々な方々に『恩返し』が出来るよう、一生懸命つとめさせて頂きたいと思っております。

ご存命の教祖より尊い理のお許しは戴いた

## 「節はおたすけの旬」

(学生担当者報より)  
本部学担委員 小塚嗣夫

とはいえ、まだまだ未熟で拙い所だらけではありますが、幾重にもご指導頂き、お力添え賜ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございます。

「若い人は何を考えているか分からないというの、いつの時代もそう言っているのです。分かるうとしないだけである。それだけのことなのです。」「生涯その子と共に通ろう、どうなっていくか楽しみだ、という気持ちで通っていくということが大それたと思います。」

新型コロナウイルス感染症拡大による行事の中止。立場はあつても経験のない自分は戸惑いしましたが、そんな時に思い出したのは二年前に直属担当者懇談会の場でお話くださった本部長富松幹禎先生の御講話です。「おたすけというのは数より質なのです。にをいがけというところを重視します。そうではないのです。一人の人に、あるいは一つの家族にどれだけ

思いを込めて、どれだけ丹精したか。これがおたすけの基準です。学生層育成は数より質というのをしっかりと覚えておかなければならない。」「若い人は何を考えているか分からないというの、いつの時代もそう言っているのです。分かるうとしないだけである。それだけのことなのです。」「生涯その子と共に通ろう、どうなっていくか楽しみだ、という気持ちで通っていくということが大それたと思います。」

新型コロナウイルス感染症拡大という大節に、誰もが自分がどうあるべきか考える旬を頂きました。節はおたすけの旬と聞かせていただきます。学生はもちろん、受け入れる側にも、送り出す側も生きてくると思います。(中駿東・此岡分教会会長)



# 結成五十周年 教区災救隊勇む

